



写真・市谷 健 「つっこめー!」

自分の可能性を伸ばす

できるかぎりお客様との現場のことを知りたいので、出張した時などよくミスタードーナツに入ります。ある店で店主の動きが目につきました。キッチンでドーナツを作っているか、裏で事務をしている人が多いのですが、彼はお客様が見渡せる場所に立って自然な笑顔で、「こんにちは、いらっしゃいませ」とお客様に声をかけていました。見てみると、気配りがとても細やかです。化粧室へ通りにくくなっている椅子をよける。お客様の側に立って、ショーケースのドーナツを選びやすいように並び替える指示を出す。子ども用椅子を持っていく。テーブルと椅子を丁寧に拭いています。

よく気がつくと思って聞くと、「多くのお店の中から選んで来てくださった方に、私でできるおもてなしをしたい」ののだと言います。以前働いていた高級レストランで身につけたことのようなです。当たり前のことですが、高級な店であろうとファーストフードであろうと「大切なお客様」であることに変わりはありません。彼はお客様との現場で自分を磨いているように見えました。常に自分の持っているものを最大限に活かして育てるよう実践している。ミスタードーナツ店主と接して、私自身も自分の可能性を最大限に活かせる努力をしなければと教えられました。

株式会社タスキン社長

山村 輝治

読む人の
心に願って
作る

喜びの タネまき 新聞

no.526

時は冬。けれど、一輪の花が春を連れてくる、この春を。

「花のひとびと」

その夜は何度、机に向かっても絵を描く気になれず、ぼんやりテレビを眺めていた。このまま眠くなったから寝ようと思っていたら、ある村人たちがヒマラヤの聖地を訪れる映像が映った。夜中の2時頃、ぼくは濃いめのコーヒーをいれた。村人たちの長い旅が始まるころだった。

鮮やかに目に入ったのは頭に付けられた花飾り。花はもちろん生花で、男も女も大人も子供もみな、頭は花でいっぱいだ。

聖地を巡礼し、念願を果たした村人たちは、ふたたび長い道程を露営しながら、ヒマラヤの裾野へと戻っていく。いつしか頭に付けられた花飾りは長旅で萎れていき、村人たちも後を追うように気落ちしていった。

生気を失った村人たちを乗せたオンボロバスが峠を越えたとき、村人のひとりが突然大声で叫んだ。人々はいっせいにバスを飛び出し丘



絵と文 中村みつを

イラストレーター、画家。絵と文の作品は自然・旅・人がテーマで、心の和む温かさ。読売新聞夕刊のみなみらんぼうのエッセイ「一步二歩山歩」に挿絵を描き、新聞連載最多記録14年目。日本山岳会会員。著書に「のんびり山に陽はのぼる」(山と溪谷社)、『お江戸超低山さんぽ』(書肆侃侃房)、『森のくらし』(リヨン社)など。



を駆け上がった。そこには瑞々しい野の花が咲き乱れていたのだ。無上の喜びに彼らは歌を口ずさみ、慣れた手つきで草花を摘んでいく。頭の花飾りは彩りにあふれ、村人たちは生き返った。それが「花の民」と呼ばれる人たちだった。あまりにも透明で素朴な心をもったその姿に、ぼくは胸が一杯になつていった。無事に帰り着くと、どの顔も、花に埋めつくされた村で満面の笑みを浮かべている。おだやかな表情の老人が風に吹かれながら話しはじめた。「遠い昔、敵に追われてこの地に

やつて来たとき、美しく咲き誇る花たちに心が癒され、それ以来ずっとこの花たちと生きてきたんだ」もうじき花の祭があるという。そのために特別な花を採りに、花の谷まで行くといった老人は、幸福そのもののように見えた。幻のような「花の民」を見終わり、ぼくも花を摘んだような気になつた。さつきまでつまずいていた自分が可笑しかった。迷いが解けたのかも知れない。間もなく朝を迎える。ぼくは美しい村を思いながら、まるで夢を見ているように眠りについた。

素材のうまみをいかして「揚げワントン2種」

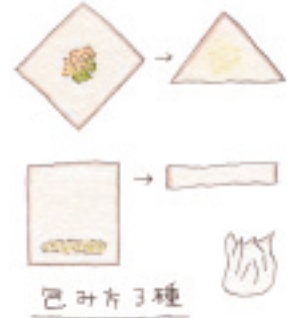
2種類の揚げワントンを作ります。大人向けには、レンコンのシャキシャキとした歯ざわりと、香菜の豊かな香り+ホタテのうまみ。お子様には、バターと青のりの風味が効いたマッシュポテトを包みます。「これ、ナニ? ナニ?」と食べてびっくり。お酒のおつまみやお弁当のおかずにもおすすめです。

お料理研究家 こいけりえ

◎作り方

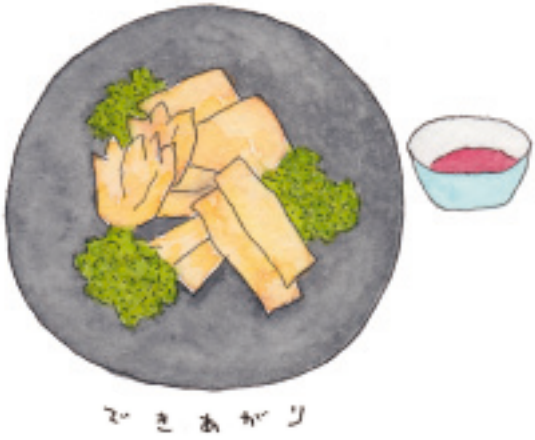
●ホタテの揚げワントン(約15個分)
生食用ホタテの貝柱60g、レンコン30g、香菜30g(または、イタリアンパセリ、シソでもOK)をそれぞれ細かく切る。ポウルに細かく切った材料を入れ、塩小さじ3分の1、酒小さじ1、片栗粉大さじ2分の1、ごま油少々を入れ、しっかりと混ぜ合わせる。

ワントンの皮15枚を用意し、一枚の皮の周りに水を少々つけて三角折にする。茶巾しぼりにしてもOK。中身が出てしまうと揚げるときにはねるので、水につけた部分は、隙間がないようしっかりと押し止める。



お好みでとろけるチーズを入れても美味しいです。残りのワントンの皮に細い棒状にした具材をのせ巻きつける。揚げているときに両端からジャガイモが出ないよう、ホタテのときと同様に皮の周りに水をつけ、指で押し両端をしっかりと止める。

●ポテトの揚げワントン(約15個分)
ジャガイモ1個は洗って皮つきのままラップをして3〜4分電子レンジで加熱する。串を刺して中がやわらかくなっているようなら、熱いうちに皮をむき、マッシュヤーやフォークなどでつぶして、バター15g、青のり小さじ3分の1、塩、こしょう少々を加え、混ぜ合わせる。



みてもらおう!

見てうれし、見せてうれし、この写真。わたしの出番の1枚を送ってください。

「よし行くよ!」
大阪市 亀井富貴子

笑顔で元氣!
三重県御浜町 向井淳子

「こんなに赤いのよん♪」
愛知県豊田市 長谷川千津子

東北を歩こう!

宮城県 仙台秋保作並ゾーン

「地底の森ミュージアム」
通年開催

※月曜、第4木曜、祝日の翌日、年末年始は休館

旧石器時代を中心としたテーマミュージアム。2万年前の遺跡を現地で保存公開し、発見された資料などから当時の環境と人類の活動をよみがえらせる展示をしています。科学的な謎解きや体験を通して、旧石器時代のことを楽しく学べる博物館です。

◎場所 宮城県仙台市太白区長町南4-3-1

◎問合せ先 仙台市富沢遺跡保存館
電話: 022-246-9153

http://www.visitjapan-tohoku.org/

東北 観光博



無人駅で和気あいあい

駅ナカ

英会話教室 (兵庫県加西市・北条鉄道・長駅)

築97年の駅舎+駅ナカ英会話!
異質なものを組み合わせるのが好きという
ボランティア駅長の村上尚美さん(46歳)のグッドアイデアだ。
神戸から小一時間、北条鉄道の長駅をお訪ねした。

土曜日の夜、大正4年に建った小さな駅に7人の生徒が来る。「楽しいわ。村上さん、こんばんは」「Good evening」と小さく声をかけ、畳敷きの駅事務室に入っていく。夜7時からの英会話教室の始まりだ。

単線の長駅に、カタン、カタン、カターンと1両だけの電車がすべり込む。1時間に数本。女性の運転手さんもいて笑顔であいさつ。通過後はひっそり静かな夜の農業地域である。

「いいな、この駅。最高やわ」
だが長駅はずっと無人駅で、北条鉄道が赤字路線の活性化のために「ボランティア駅長」を導入し、村上さんが引き受けた時は、床が傾き畳が腐って、事務室や仮眠室にはネズミが住んでいた。鉄道が開通した当時は4、5人もの駅員がいたそうで「このままじゃ、もったいない」と華やかな昔日を偲び、ついやる気になった。

それに村上さんの2人の息子は幼い頃、列車が大好きで「毎日乗せてた。子育て列車みたいだった」そうで、愛着もひとしお。
友人と一緒にまずは掃除。修理を始めると、近くの畳屋さんが畳を、知人が木材を提供。プランターの花を世話する方もいるし、清掃してくれるのはホームのお向かいさん。ネットワークの広い村上さんならではのが、

「ここはご近所さんで持つている。見えないう方もサポーター。そうでないとできませんよ」
事務室を整えたら、何か始めたくなりました。自身が英会話を教えていたこともあり、まず駅ナカ英会話教室。今まで4年ほど続いて、初級と中級各7名の定員。月4回レッスンで8月と12月は休講となる。先生はオーストラリア人のデイビッド・ス



「いいな、この駅。最高やわ」

「教え方がすごく上手」な先生。
ご近所であれば行きたいな。



沿線の他の無人駅でも発想豊かなボランティア駅長さんがいて、市も応援している。『地域活性化』をとくに越える速度でこの先も走りそうだが、「古いものを大切に使う優しい気持ちが大変。そして、自分の手元にあるものでいかに楽しむかを見つけること」なるほど、地についた女性の豊かな発想こそ力なのでした。



英語も上手な村上尚美さん。



がんばれ

佐賀県白石町 森道子

今日は三男の通う小学校の持久走大会。昨夜は、本番を前にして咳や鼻水が出始めたため、薬を飲み、入浴も見合わせて早めの就寝。今朝は三男の体調を気にしながらも、主人と海に出て、海苔摘みの仕事を終えて帰宅した。昼休みに学校へ電話すると、保健の先生が出られ「熱を計りましたが、まあいいでしょう」。安心して2時過ぎに自転車ですぐ学校へ行き、エールを送る。「もし、お父さんから仕事コールがきたら走る本番はいないかもよ」と言うのと、「爺ちゃんでも婆ちゃんでもリック(飼犬)でもよかとよ」の一言。なんとしても応援しなければ！帰るわけにはいかない。

いよいよ最終の5、6年生男子がスタート。子供達は練習の成果を出し切って走っている。そこへ主人からの着信がきて「ごめん。あと5分待って！」校門に差し掛かった三男のゴールを見届け、毎年恒例の伴走で終えた。

——やったね！



働くお正月

神奈川県厚木市 北澄邦香

大学に入学した息子は、小遣い欲しさに7月末からお寿司屋さんでアルバイトを始めた。就職難の風はアルバイトにも吹いている。自分の都合で働けるころはなかなか見つからず、すぐに根を上げてしまおうと思っていた。やがて年末年始。いつもは主人の実家でのんびりお正月を迎えていたが、息子は暮れも仕事だった。三日は10〜12時間にも及ぶ仕事で、いつもは起こしても起きない息子が、朝5時半に起きて6日間頑張りぬいた。

「6日間終わったら、なんだか誇らしく、自分がいい顔してるなあって思っちゃった」
働く大変さが分かった、良いお正月だったね。お疲れさま！

——キリッといいなせな若い衆。社会の入口ですね。



娘自慢

静岡県三島市 原克子

「かつちゃん、すごいきね！みんなに見せたよ。褒めてたつきよ！」先日、私の短い文章が新聞に載った。本名と年齢も掲載されたので、恥ずかしくて誰にも言わないうた。それでも年をとった母の話の種になれば！と思い電話で教えたところ、大喜びで近所の人に自慢して歩いてた。片道2時間の距離を遠いと思っ、あまり行かなかつたが、母にもっと会いにいこう。暖かくなつたら、どこかへ一緒に出かけようと思えます。おかあちゃん、待っててね。

——そりゃあ、いちばんうれしかも。



吹雪の出会い

福島県郡山市 境野延美

夕方から降り始めた雪が、夜には吹雪になりました。中山道を車で北へ。神流川の橋を渡れば、埼玉県から群馬県に入るところでした。橋にさしかかると、川上から吹きつける雪を避けて、傘を横向きにして歩いている人を発見しました。中年の女性のような様子。停車して、助手席の小学生の娘が窓をあけると、車内にドツと勢いよく風と雪が吹き込んできました。「お乗り下さい」と言うのと「橋を渡ればすぐですから」「いや橋の上だけでも大変！前橋の家に帰る途中なんです。どうぞ遠慮なく！」問答する間もなく、女性は後部座席に乗り込みました。橋を渡ってすぐどころか、結構な距離があり、大きな門のお屋敷に車を止めました。「ありがとうございます。助かりました。お寄りになってお茶でも」と言われましたが、言葉だけをいただいて帰りました。家につくと、心配していたおばあちゃんに、娘が今日の出来事を細かく報告。良かったね！とみんなで笑顔になりました。

——寒い日のあつたかい笑顔。



父のコーヒー

鳥取県伯耆町 柳原初枝

「しまったー」カップの底に沢山のコーヒーのカスが！いつだったか、こんなコーヒーを飲んだ覚えがある。そうだ！そうだ！と、ほんわか胸が温くなる出来事を思い出しました。

母の退院の日。病院から母と戻り、玄関を開けると、とても良い香りがする。コーヒーだ。「ひょうとして、お父さんが入れてくれたの!?」「うん」少しレレして父が言った。縦のものを横にもしない人なのに!!「うそ〜!?」とポットを覗くと、底にしているコーヒーのカスが。生まれて初めて入れてくれた父のコーヒーを、母は嬉しそうに上澄みをすするように飲んでた。あのコーヒーは、もう飲みたくても飲めませんが、今日も私の心を温かくしてくれます。

——ちよん(ママ)してるのが、また良いんですよね。



2つに1つ

鹿児島県薩摩川内市 奥里加

小学1年の息子と私と、2人で外出したときのことです。帰りは電車に乗って50分ほどかかりました。

退屈しのぎに、本でも買おうかと思いましたが、けれど、よく考えたら、息子の分は…。息子にはつい先日、戦隊ヒーローもの満載の雑誌を買ったばかり。わたしの分だけ買って、息子は退屈だと言うにちがいないし。2冊もと迷いました。「どうしようか？」と息子に言つと、「2つしかありません。母ちゃんが我慢するか、ボクを甘やかすか」と返答。「……！」
思わず吹き出したやりとりでした。

——まいったなあ、もう。



福岡市 宇山陽子

「笑う門には福来たる」

ひと様のお世話をする

「人を助ける」とは
思えば上りも、はなはだしいと、
気がついた時に
「人につかえる」まして商売人の私は
「お客さまにつかえる」のだ、と思つたら
うなずけました。
自主的に、自発的に「人につかえる」
即ち「人様のお世話をする」
自分になるう！

鈴木清一

愛の輪

誰もが心地よい暮らしをつ

●みなさまからお寄せいただいたお話をもとに新聞をつくってまいります。
紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

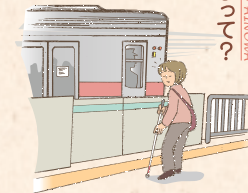
●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。
どうぞ、あなたが体験した嬉しかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

●送り先
〒163-0223 東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集部
電話 03(5909)6703
e-mail:koho4@mail.duskin.co.jp

●4-5ページの「駅ナカ英会話教室」の連絡先
北条鉄道 電話:0790-42-5211
駅ナカ英会話 in 長駅
お申し込み 電話:090-7340-0888(村上さん)
ホームページ: http://www.hojorailway.jp/news/2010/551/

第10回 ホームドアの役割を知っていますか?

プラットホームからの転落や列車との接触事故から守るためのホームドア。ホームの線路側に設置された仕切りで、列車の扉と同時に開閉します。頻繁に列車が発着する都会のホームは全盲や弱視など視覚に障害のある人にとって、危険性が高まります。子供や高齢者など多くの人の身を危険から守る防柵の役割を果たしているのです。



このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。
☎06-6821-5270 HP (http://www.ainowa.jp/)
愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障害のある若者に、海外での研修支援を行っています。

🌱 **エコな取り組み ~北海道沼田町~**
たくさんの雪を使って節電!

豪雪地帯である沼田町では、1996年から雪を使ったお米の貯蔵施設が活躍しています。冬に1500トンもの雪を運び入れ、春から夏にかけて雪冷房で温度と湿度を管理し、お米の品質を守ります。電気冷蔵庫と比べると消費電力は約1/5。今では農産物の貯蔵や公共施設、一般家庭にまで、雪冷房が取り入れられています。



このお米は
沼田町産



(ダスキン環境シンボルマーク)



身近に、未来に、エコのタネまき。

●ダスキンでもさまざまなエコ活動を実践中。webで「ダスキンのエコ」を検索してね。

ダスキンのお客係募集中!!

詳しくはwebで

お客係係

検索

※お仕事内容や募集要項をご覧ください。



携帯からも
アクセス

お楽しみクイズ

沼田町の米貯蔵施設で
使われる雪の量は?

トン



正解者の中から50名様に
**「プチローズセット」を
プレゼント!**

ローズの香りの
ボディソープ&入浴剤



下記の要領でご応募ください。

- ハガキに
①クイズの答え ②郵便番号 ③住所 ④氏名
⑤年齢 ⑥性別 ⑦電話番号 ⑧ご利用のダスキン店名
⑨この新聞内で好きなコーナーをご記入の上、
下記あて先までお送りください。
- クイズ専用のあて先 ※郵便番号とあて先のみで届きます。
〒163-0265 住所は不要です。
(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞no.526」
クイズプレゼント係
- 締め切り 平成25年2月22日(金)当日消印有効
- ダスキン関係者の応募はご遠慮ください。
- 当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
(平成25年3月上旬お届け予定)
- 応募に関してのお問い合わせ TEL:03-5909-6703
※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。

今回ご応募いただいた個人情報については、(株)ダスキンの範囲内でのみ利用させていただきます。プレゼントの抽選・発送の目的以外には使用いたしません。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」クイズプレゼント係 TEL:03-5909-6703 までご連絡ください。

no.524のクイズの答えは「コウノ(トリ)」でした。

●この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

編集：「喜びのタネまき新聞」編集室

〒163-0223

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)

TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループ企業と加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。

個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

0120-100100 www.duskin.jp